

「宮崎ひなた生活圏づくり」通信 Vol.1

R3.1



県では、人口減少下においても、将来に渡って住み慣れた地域に安心して住み続けられるよう、「宮崎ひなた生活圏づくり」の取組として、地域運営組織の形成等を支援しています。

この通信では、地域で暮らす人々が中心となって地域課題の解決に取り組んでいる事例など、これからの地域活動のヒントとなるようなものを発信していきます。

高齢者の移動支援

～東郷まちづくり協議会、日向市社会福祉協議会～

地 域 名：日向市東郷町
活動地域：日向市東郷町の一部（迫野内、羽坂）
団 体 名：東郷まちづくり協議会、
日向市社会福祉協議会東郷支所
地域概況：人口3,057人、世帯数1,607世帯、
高齢化率50.7%
（住民基本台帳 令和2年8月1日現在）
問い合わせ先：東郷まちづくり協議会事務局
（日向市東郷地域振興課 0982-69-3900）



【取組の経緯等】

- 東郷地域で唯一のタクシー会社が平成30年3月末で撤退。東郷まちづくり協議会（以下「まち協」）の役員が、住民から「タクシーがなくなって病院に行けなくなった。まち協でなんとかしてくれないか」との相談を受けたことから、検討を開始。
- 都城市庄内地区まちづくり協議会が運営している自家用車有償旅客運送でのコミュニティバスの視察などを行い、市の総合政策課へ同じ取組ができないかと相談したが、課題も多く、すぐには開始できないことが分かった。
- ちょうど同時期、日向市社会福祉協議会東郷支所（以下「社協」）においても、サロンや百歳体操などの集いの場に参加できない高齢者の移動支援策について検討していた。
- まち協が社協に相談を持ちかけたところ、一緒に対策を練ることになり、協力しながら、集いの場へ的高齢者の移動支援体制を整備していった。
- 社協が全体の仕組みを構築し、まち協では、ボランティアドライバーの確保に尽力。会員に声をかけるなどして、協力者を確保した。

【活動の概要】

- 公民館で週1回開催されている百歳体操に、あらかじめ社協に登録している利用者をドアツードアで送迎。送迎にはドライバーの自家用車を使用している。
- ボランティアドライバーのシフト調整は社協が実施。現在は2地区合わせて11名のドライバーがおり、1人あたり2ヶ月に1回程度の稼働となっている。
- 利用者から利用料等は徴収しておらず、ボランティアドライバーには社協からガソリン代等の実費分を支給。（県社協やボランティア基金等の助成金を活用）
- ボランティアドライバーは、民生委員や自営業、主婦、有志で構成されている。

【工夫点や特徴】

- 地域の多様な主体がそれぞれの役割を分担しながら高齢者の移動支援に取り組んでいる。
- まち協の呼びかけにより、今年度、商工会、地域の建設団体、出荷者協議会、ふるさと公社、社協が集まり、それぞれが個別に実施していた地域活動や地域の役員の重なりを解消し、それぞれの得意分野を活かして、効率よく地域づくりに取り組んで行くため、話し合いを始めている。

【今後の展望】

- ボランティアドライバーはみな70歳を超えており、活動の継続を考えると若手ドライバーの確保が課題。
- まち協では、平成31年に全家庭の65歳以上を対象に交通弱者に関するアンケート調査を実施。その結果、通院や買い物の困りごとが出てきたことから、百歳体操の送迎だけでなく、今後は市と一緒に研究を重ね、買い物支援や通院などの交通弱者対策に取り組んで行こうと、検討を開始している。



今後も、不定期に県内の活動事例を紹介していきます。
地域で暮らす人々が中心となった取組について情報
がありましたら、ぜひお寄せください。

宮崎県総合政策部中山間・地域政策課
中山間・特定地域振興担当
電話:0985-26-7036
メール:chusankan-chiiki@pref.miyazaki.lg.jp